

# 第三者評価等のための 研究力把握に関する勉強会 ～情報共有のための説明資料～

---

平成28年2月8日(月)

山形大学東京サテライト@CIC

# 配布資料

---

資料1 第三者評価等のための研究力把握に関する勉強会～情報共有のための説明資料～  
(本スライド)

資料2 大学評価・学位授与機構が作成(2015年8月)した国立大学法人評価における「学系別の教育・研究水準の評価にかかる参考例」

資料3 第一期法人評価で提出された研究業績のWeb of Science収録状況

# 勉強会のタイムスケジュール

---

- 13:00-13:05 趣旨説明
- 13:05-13:30 話題提供
- 13:30-13:35 小休憩＋会場移動
- 13:35-15:35 グループ討論(A班、B班)
- 15:35-15:40 小休憩＋会場移動
- 15:40-15:55 総合討論
- 15:55-16:00 アンケート記入

# 勉強会の趣旨

---

- ◆ 第5期科学技術基本計画等のとりまとめ等により、評価結果を活用した研究マネジメントへの取組
- ◆ 平成25年度「研究力強化促進事業」、平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援プログラム」のタイプA(トップ型)採択機関における研究力把握への取組
- ◆ 国立大学では、第二期の中期目標・中期計画期間を対象とした評価において、研究活動の状況とその成果の量的・質的な把握
- ◆ こういった状況を踏まえ、研究力把握における現状と課題を他大学担当者及び関係機関の方などと話し合い、その解決法を模索する場として本勉強会を開催
- ◆ 現在、国立大学で行われている法人評価の観点などを用いながら、研究力の状況を分析を行うための視点やコツ、課題などを参加者間で共有

# 【第2期】認証評価・法人評価の位置づけ

	認証評価	国立大学法人評価
実施機関	認証評価機関	中期目標期間の 業務実績評価 国立大学法人評価委員会 + 大学評価・ 学位授与機構 年度評価
評価対象	機関別認証評価: 国公立大学 専門職大学院認証評価: LS, MBA等	国立大学法人 大学共同利用機関法人 中期目標期間の6年 間(H22~H27) H22~H27の各年 度
評価周期	7年以内に1回	中期目標期間 (6年)ごと 毎年度

# 【第2期】認証評価・法人評価の目的等

種 別	目 的	内 容							
機関別 認証評価	教育の質の保証	10の基準に沿って記述							
国立大学 法人評価	中期目標の達成状況 評価を通じて、 大学の継続的な質的 向上を促進するととも に、社会への説明責 任を果たす。	教育・研究	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1103 482 1541 672">中期目標の 達成状況報告書</td> <td data-bbox="1551 482 1879 672">中期目標 (教育研究)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1103 672 1541 782">現況調査表(教育)</td> <td data-bbox="1551 672 1879 782">2項目4観点</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1103 782 1541 953">現況調査表(研究)</td> <td data-bbox="1551 782 1879 953">2項目3観点 研究業績説明書</td> </tr> </table>	中期目標の 達成状況報告書	中期目標 (教育研究)	現況調査表(教育)	2項目4観点	現況調査表(研究)	2項目3観点 研究業績説明書
中期目標の 達成状況報告書	中期目標 (教育研究)								
現況調査表(教育)	2項目4観点								
現況調査表(研究)	2項目3観点 研究業績説明書								
		業務運営 財務内容 自己点検・評価 その他 病院、学校	中期計画のH22-26の概況 H27年度計画の状況 特記事項、共通事項						

# 【第2期】法人評価：現況調査表（研究） 分析項目及び観点

分析項目	基本的な観点
I 研究活動の状況	○研究活動の状況 ○大学共同利用機関、大学の <u>共同利用・共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設</u> においては、共同利用・共同研究の実施状況
II 研究成果の状況*	○研究成果の状況（大学共同利用機関、大学の <u>共同利用、共同研究拠点に認定された附置研究所及び研究施設</u> においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること）

\*この分析項目では、学部・研究科等を代表する優れた研究業績を選定し、「研究業績説明書」を添付する必要がある。

# 【第2期】法人評価：研究業績説明書

## 研究業績の判断基準

- 研究業績は、学部・研究科等の目的や方向性に沿って選出。
- 研究水準の判断は1)学術的意義、2)社会、経済、文化的意義のいずれか（又は双方）の視点で行う。

### 1)学術的意義

SS	当該分野において、卓越した水準にある
S	当該分野において、優秀な水準にある
A	当該分野において、良好な水準にある
B	当該分野において、相応の水準にある
C	上記の段階に達していない

### 2)社会、経済、文化的意義

SS	社会、経済、文化への貢献が卓越している
S	社会、経済、文化への貢献が優秀である
A	社会、経済、文化への貢献が良好である
B	社会、経済、文化への貢献が相応である
C	上記の段階に達していない



# 【第2期】法人評価：研究業績説明書 研究業績の判断基準（参考例）

学系別の教育・研究水準の評価にかかる参考例： 配布資料2

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation  
NIAD-UE  
HOME SITE MAP English Page  
独立行政法人 大学評価・学位授与機構 WEB SITE

CONTENTS

- 更新履歴
- 機構について
- 評価事業
- 学位授与事業
- 国際連携・調査事業
- 調査研究
- 出版物・ビデオ
- 情報公開
- 職員採用
- アクセスマップ
- シンポジウム・セミナー
- 情報セキュリティポリシー
- お問い合わせ先一覧
- リンク

検索

ご意見・ご要望はこちらへ  
〒107-8587  
東京都小平市学園西町1-29-1

>>HOME >>出版物等 >>調査研究プロジェクト報告書 >>研究プロジェクト報告書リンク先ページ

SUB MENU  
出版物等

「教育・研究水準の学系別評価基準のあり方にかかる調査研究報告書  
- 学系別の教育・研究水準の評価にかかる参考例」2015年8月

■ 報告書 PDF-file (全体:4.85MB)

項目	内容
1.	はじめに
2.	学系ごとの教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.1	人文科学系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.2	工学系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.3	理学系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.4	農学系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.5	保健系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.6	教育系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
2.7	社会科学系の教育・研究水準の評価にかかる参考例
資料1	政府・学術団体等による答申・提言類に見られる大学の教育研究活動への期待事項
資料2	第一期法人評価で提出された研究業績のWeb of Science 取録状況
資料3	「教育・研究水準の学系別評価基準のあり方」にかかる調査研究「検討委員会一覧（後日公表）」

URL: [http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/project/syousai/3222\\_index.html](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/syousai/3222_index.html)

# 【第2期】法人評価：研究業績説明書 記入様式

研究業績説明書															
法人番号		法人名			学部・研究科等番号			学部・研究科等名							
1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】															
2. 選定した研究業績															
業績 番号	種目 番号	種目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】							学 術 的 意 義	社 会 ・ 経 済 ・ 文 化 的 意 義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等) 【400字以内。ただし、「学術的意義」及び「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重 査 し て 選 定 し た 研 究 業 績 番 号	共 同 利 用 等
				a) 著者・発表者等	b) タイトル	c) 発表雑誌・会合等	d) 巻・号	e) 頁	f) 発行・発表年等	g) 掲載論文のDOI (付与されている場合)					
1				(1)											
				(2)											
				(3)											
2				(1)											
				(2)											
				(3)											

# 研究大学強化促進事業(H25) ヒアリング対象機関選定の指標

---

- ◆ 指標1-1 科研費の研究者当たりの採択数
- ◆ 指標1-2 科研費の若手種目の新規採択率
- ◆ 指標1-3 科研費の研究者当たりの配分額
- ◆ 指標1-4 科研費「研究成果公開促進費(学術図書)」の採択数
- ◆ 指標1-5 拠点形成事業の採択数
- ◆ 指標1-6 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)の採択数
- ◆ 指標2-1 論文におけるTop10%論文数の割合(Q値)
- ◆ 指標2-2 論文数における国際共著論文の割合
- ◆ 指標3-1 研究開発状況(民間企業との共同研究・受託研究受入実績額及びこれまでの伸び率)
- ◆ 指標3-2 技術移転状況(特許権実施等収入額及びこれまでの伸び率)

# 研究大学強化促進事業(H25) 審査の観点

---

## ◆ 実現構想の推進体制

### ◆ これまでの取組状況と、研究活動の状況分析を踏まえた研究力強化の方針

- これまでに、研究力向上に資する大学院改革に関する取組や、人材登用、国際化、研究推進体制の改革に関する取組を積極的に行ってきたか。
- 機関が自ら行う研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析(人材登用、国際化、研究分野、研究推進体制等の分析)の結果を踏まえた方針となっているか。
- 5年度目、10年度目の目標も含んだ機関全体の研究力強化の方針となっているか。
- 研究活動の状況分析、本補助事業を含む研究力強化の取組の進捗状況や成果等について、積極的な情報発信を行う内容となっているか。

### ◆ 研究力強化の方針に基づき取り組む制度改革等

- 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析の結果を踏まえた研究力強化の方針に即した内容となっているか。
- 人事規則等の関係規程の見直し、能力等に応じた処遇、年俸制の導入など、研究力強化に資する人事労務制度の改革に向けた取組内容となっているか。
- 大学院教育の改革、若手・女性研究者の確保、国際公募の導入・拡大、産業界との連携など、研究力強化に資する人材確保に向けた取組内容となっているか。

# 研究大学強化促進事業(H25) 審査の観点

## ◆研究力強化の方針に基づき取り組む事業《Aメニュー》

### □研究力強化の方針との関係

- 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析の結果を踏まえた研究力強化の方針に即した内容となっているか。

### □URAの雇用計画とその活動

- URAの雇用計画(雇用・配置する人数や部署など)、整備する組織とその構成は、実現性が高く、機関における研究環境の改革が期待できる内容となっているか。
- URAが従事する職務内容と活動内容(特にURA組織のチームとしての活動)は、実現性が高く、機関における研究環境の改革が期待できる内容となっているか。
- URA事業を実施している機関においては、URA事業による取組と相互連携し、当該取組の成果を効果的に活用する内容となっているか。
- 補助事業終了後の継続(補助事業期間終了後の展開や、URA人材の中長期的な人事労務構想、継続実施するための経費を含む)を見据えた内容となっているか。

### □URAの職務環境等の整備

- URAの業務に必要な環境整備(キャリアパス、「URA」職種の整備、雇用・選考等人事労務関係条件の整備、URAのスキル向上のための取組等)の内容は、実現性が高く、URA組織の体制整備に資する内容となっているか。

## ◆研究力強化の方針に基づき取り組む事業《Bメニュー》

### □研究力強化の方針との関係

- 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析の結果を踏まえた研究力強化の方針に即した内容となっているか。

### □研究環境改革の取組内容

- 機関としての取組実績を踏まえた、研究環境改革に向けた意欲的な内容となっているか。(機関内で既に実施しているシステム改革事業における評価や進捗状況を踏まえた改善状況も勘案する。)
- 《Aメニュー》の取組を効果的に活用する内容となっているか。
- 補助事業終了後の継続(補助事業期間終了後の展開や継続実施するための経費を含む)を見据えた内容となっているか。

# 研究大学強化促進事業(H25) 採択機関

種別	選定機関
配分額: 4億円 × 4	国立: 東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学
配分額: 3億円 × 16	国立: 筑波大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、電気通信大学、大阪大学、広島大学、九州大学、奈良先端科学技術大学院大学 私立: 早稲田大学 法人: 自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構
配分額: 2億円 × 6	国立: 北海道大学、豊橋技術科学大学、神戸大学、岡山大学、熊本大学 私立: 慶応義塾大学

# SGU トップ型(H26)

## 共通の成果指標と達成目標

### ◆国際化関連

#### □多様性

- 教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
- 職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合
- 教員に占める女性の比率
- 全学生に占める外国人留学生の割合

#### □流動性

- 日本人学生占める留学経験者の割合
- 大学間協定に基づく交流数

#### □留学支援体制

- 日本人学生の留学についての支援体制の構築
- 外国人留学生等の支援体制の構築

#### □語学力関係

- 外国語による授業科目数・割合
- 外国語のみで卒業できるコースの数等
- 日本語教育の充実
- 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

#### □教務システムの国際通用性

- ナンバリングの実施状況・割合
- GPA導入状況
- シラバスの英語科の状況・割合
- 教育プログラムの国際通用性と質保証

#### □大学の国際開放度

- 柔軟な学事歴の設定の有無
- 入試における国際バカロレアの活用
- 渡日前入試、入学許可の実施状況
- 奨学金支給の入学許可時の伝達
- 混住型学生宿舎の有無
- 海外拠点の数及び概要
- 外国人留学OBの積極的活用
- 外国語による情報発信等

# SGU トップ型(H26) 共通の成果指標と達成目標

## ◆ガバナンス改革関連

### □人事システム

- 年俸制の導入
- テニュアトラック制の導入
- 国際通用性を見据えた人事評価制度の導入・活用
- 国際通用性を見据えた採用と研修

### □ガバナンス

- 事務職員の高度化への取組
- 具体的ビジョン、中期計画の策定
- 迅速な意思決定を実現する工夫
- 意思決定機関等への外国人の参画
- IR機能の強化・充実

## ◆教育の改革的取組関係

### □教育の質的転換・主体的学習の確保

- 学生の実質的学びの時間の確保に関する取組
- 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進
- TA活用の実践

### □入試改革

- TOEFL等外部試験の学部入試への活用
- 多面的入学者選抜の実施

### □柔軟かつ多様なアカデミック・パス

- 柔軟な転学科・転学部、Late Specialization等
- 早期卒業・入学、5年一貫性課程等

## ◆その他

### □教育の情報の徹底した公表



# SGU トップ型(H26)

## 個別観点

---

### ◆A-1(国際的評価の向上)

- 国際的評価の向上につながる取組みについて、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2ページ以内で作成

### ◆A-2(国際的評価に関する教育・研究力)

- 国際的評価にて強みのある分野の有無について、【これまでの取組】及び【本構想における取組】と合わせて2ページ以内で作成

※何らかの国際的評価を示す指標において、上位の国際的評価を示す分野を有しているか。

東京大学：ノーベル賞受賞者数、QSランキングの分野別順位、理学・工学分野(ノーベル賞等の著名な受賞、国際教育プログラムの設置)、生命科学分野(コッホ賞等の著名な受賞)、人文学・社会科学分野(QSランキングの分野別順位)、学際分野(リーディング大学院採択、国際研究教育のネットワーク)

京都大学：QSランキングの順位、医学分野(ノーベル賞等の著名な受賞、海外の最先端研究との共同研究)、数学・数理解析分野(フィールズ賞等の著名な受賞、国際学会における基調講演、GCOE採択)、工学/科学分野(ノーベル賞等の著名な受賞、分野内の順位、GCOE採択)

筑波大学：ノーベル賞受賞者数、NISTEレポートの順位(V1Q2)、物理学分野(Top10%論文の割合、国際共著率、大型科研費)、生命科学分野(大型科研費、分野内順位)、人文社会学系分野(グローバル人材育成推進事業や世界展力事業等採択、大型科研費)

# SGU トップ型(H26)

## 採択大学: 13

---

### ◆ 国立大学(11)

- 北海道大学
- 東北大学
- 筑波大学
- 東京大学
- 東京医科歯科大学
- 東京工業大学
- 名古屋大学
- 京都大学
- 大阪大学
- 広島大学
- 九州大学

### ◆ 私立大学(2)

- 慶應義塾大学
- 早稲田大学

# グループ討論の進め方 (13:35ー15:30)

---

## ◆A班(担当: 鳶田、藤井)

- 研究力把握全般について検討
- 研究活動の状況、研究成果の状況、優れた研究業績の選出方法について、参加者相互の討論によるノウハウの提供や提案を行う

## ◆B班(担当: 浅野、大野)

- 書誌情報データベースやその分析ツールを活用して研究力把握の具体的な手法を検討
- 実際にデータベースを操作しながら研究力の状況分析等を行う

# 総合討論の進め方 ( 15:40—15:55 )

---

## ◆各班における検討事項の共有

□A班： 5分程度で発表

□B班： 3分程度で発表

## ◆A班及びB班発表に対する質疑応答

## ◆全体に対する意見、コメント等

→研究力の状況を分析を行うための視点やコツ、  
課題などをお持ち帰りいただく